

# 令和6年度 八洲学園大学事業計画書

## 1. 施設の概要

学校名	所有区分	郵便番号	学校（会場）所在地	電話番号	FAX 番号
八洲学園大学	法人所有	220-0021	神奈川県横浜市西区桜木町 7-42	045-313-5454	045-324-6961
八洲学園大学	法人所有	160-0022	東京都新宿区新宿 2-12-12	-	-

## 2. 学生の概要

### (1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧（令和6年3月1日時点）

設置学部	学科	入学定員 (人)	編入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③科目等 履修生数 (人)	④特修生数 (人)	収容率 (%) ②÷①×100
生涯学習学部	生涯学習学科	800	400	4,000	2,423	582	20	60.6

### (2) 令和6年度入学者数・卒業者数・退学者数・除籍者数予測一覧

学生区分	入学者数 (人)	編入学者数 (人)	卒業者数 (学位授与数) (人)	リカレント修了/終了者数 (人)	退学者数 (人)	除籍者数 (人)	増加予測人数 (人)
正科生	105	313	111	406 (リカレント修了者)	73	0	-172
科目等履修生	573	—	—	251 (終了者)	41	162	119
特修生	4	—	—	—	4	0	0

※除籍は平成29年度まで実施なし、平成30年度～実施。

### 3. 教職員関係

#### (1) 令和6年度管理職の概要

職名	氏名	備考（新任・留任等）
学長	水戸部 優子	留任
事務局長	佐藤 明由美	留任
総務課長	佐藤 明由美	留任
教務課長	佐藤 絢	留任
学生支援センター長・入学支援相談センター長	磯西 優佑	留任
キャリアコーディネイト室長	佐藤 絢	留任
広報室長	佐藤 絢	留任

※学生支援センター長・入学支援相談センター長は令和5年9月1日付で就任した。

#### (2) 令和6年度教職員の概要（令和6年4月1日時点）

職位		合計（人）	平均年齢（歳）
教員	本務	19（理事長、学長を含む）	49.9
	兼務（非常勤講師）	43	54.3
職員	本務	6	35.7
	兼務	5	52.2

### 4. 事業の概要

#### (1) 事業の概要

##### ①定員充足率の向上

主にウェブ媒体による大学広報を促進し、ここ数年改善傾向にある定員充足率のさらなる向上をはかる。令和6年度は主に、通信制高校へ

のアプローチ強化、パンフレットの見直し、WEB サイトおよびメールマガジンの見直しを予定している。

#### ②学生のニーズに応える学習環境の整備

若年者からシニアまで幅広い層の学生を受け入れていることを踏まえ、カリキュラムやeラーニングシステムの改善に努める。令和5年度は特に、令和3年公布（令和6年施行）の「改正障害者差別解消法」を踏まえた合理的配慮の体制整備や設備の充実を進める。

#### ③社会貢献・地域貢献等

オンラインによる公開講座のほか、対面型の防災士養成講座やゲートキーパー養成講座などを開講し、生涯学習社会の実現に貢献する。また、空き教室の貸出事業は、令和6年度から中教室にWi-Fiを完備し単価（4時間毎）を1,000円上げることで、収入増を目指す。

#### ④自己点検・評価

令和6年度は大学機関別認証評価の受審年度にあたる。これまでの自己点検・評価の集大成として全学的に取り組む。

<数値目標> 対前年度比110%

- ・入学者数：1,068名（科目等履修生を含む）、うち正科生（1年次入学）115名
- ・学生生徒等学納金収入：321,543,530円
- ・公開講座：7,442,197円
- ・施設設備利用料収入：9,179,874円

（2）主な事業の目的・計画及びその進捗状況（「令和5～15年度八洲学園大学第3期中長期計画」に基づく）

「八洲学園大学第2期中長期計画」が令和4年度をもって完了し、令和5年度から第3期中長期計画を開始した。

#### ①教育研究

年度	事項	概要	進捗状況
5	教育課程の体系的な編成	・生涯学習社会の実現のため、生涯を通して学び続けて社会の変化がさらに激しくなる時代を生き抜く意欲をもった人材を育成している。 ・知識基盤社会をたくましく、しなやかに生き抜くことのできる	・令和4年度に学生アンケートを実施し、意見・要望は全教職員（及びシステム関連はeラーニングシステム会社）に共有し改善に役立てた。

		<p>生涯学習者・生涯学習支援者を育成するカリキュラムを編成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標を明確にして、科目ごとの成績評価への厳正な適用を図っている。</li> <li>・カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成を目指して、科目の開設と見直しを進めている。</li> <li>・実践的なプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を培う演習科目など、課題発見・解決力や豊かな人間性の醸成に資する科目群を開設している。</li> <li>・学生や卒業生の視点を育成に反映させるためのアンケートを実施して、科目の新設に役立てている。</li> <li>・国家資格取得などの学びを通じて地域の活性化に貢献する人材を育成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書、学芸員、社会教育主事（社会教育士）、司書教諭、社会福祉主事の科目を開設し、多くの資格取得者を輩出している。</li> <li>・令和5年度に教務委員会でディプロマ・ポリシーと科目の関連性に関するアンケートを実施した。</li> </ul>
5	教員の能力開発と教授方法の工夫・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングシステムの特徴を生かしたアクティブラーニングを具現化する教育方法などの教授法を開発して拡充している。</li> <li>・eラーニングシステムの機能が多様なインターネット環境に応じて最適化されている。</li> <li>・FD(Faculty Development)研修を実施して意見交換を行ない、eラーニングシステムを教育指導に活かすための能力の開発を図っている。</li> <li>・教員同士の交流の機会を作って、教育・研究の経験と問題意識を共有している。</li> <li>・グローバル化の進展により多様となったインターネット環境に対応できる学びのスタイルを提供している。</li> <li>・国内のどこからでも教員が配信し、学生が受講できるeラーニ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度にSD・FD合同サロンをオンラインで開催した。</li> <li>・令和5年度にSD・FD研修会を実施した（3月予定）。</li> <li>・平成28年度からのFD公開授業（教員間の授業参観）を継続している。</li> <li>・令和4年度から科目評価アンケートを再開し、各教員に個別の結果を通知し、集計結果を教員情報ページで共有している。</li> <li>・コロナ禍による学生への来校自粛要請を令和5年度に解除した（令和5</li> </ul>

		ングシステムを整備している。	年度は事前申請制、令和6年度から完全自由)。
5	研究活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部資金の公募情報を収集して提供し、応募を促進している。</li> <li>外部資金の応募にあたって申請書類の作成を支援する体制を整備している。</li> <li>図書館や研究室など教育・研究を行なうための設備の充実を推進している。</li> <li>学術情報リポジトリを構築し、研究成果の活用を促進している。</li> <li>適切な研究時間の確保を図るため、教育・研究以外の教員業務の効率化をさらに推進している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度より、科研費以外の公募情報も事務局より教員にメールで案内している。</li> <li>令和元年度に JAIRO Cloud を導入し、令和3年5月に全紀要論文の「八洲学園大学 学術情報リポジトリ」登録を完了した。</li> <li>令和2年5月より学内委員会をオンラインで開催している。</li> <li>令和5年度に「個人研究費及び研究旅費に関する手引き」を作成した。</li> </ul>

## ②学生の受け入れ・学生支援

年度	事項	概要	進捗状況
5	学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な学生の受け入れを推進している。</li> <li>特別な配慮を必要として入学を希望する人に対して入学支援相談の体制を整備している。</li> <li>eラーニングシステムの機能を生かして、世界中どこからでも学べる環境を整備している。</li> <li>入学検討者向けの模擬授業、オープンキャンパス、各種SNS(Social Networking Service)を活用した広報など多様な学生を受け入れるための取組を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年1月に「八洲学園大学 障害学生支援規程」施行し、「修学上の配慮に関する申請書」の運用を開始した。</li> <li>令和5年2月より、「SOBA マナベル」の授業体験も兼ねた入学説明会を開始した。</li> <li>令和6年度は、通信制高校へのアプローチ強化、パンフレットの見直</li> </ul>

			し、WEB サイトおよびメールマガジンの見直しを予定している。
5	学修支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の一人ひとりが自分の社会生活と両立して学び続けているように学修支援体制を整備している。</li> <li>・アカデミック・スキル関連科目の整備を通じて学修の促進を図っている。</li> <li>・自然災害などの非常事態を想定して、学修の継続を図るための学修支援体制の整備を検討している</li> <li>・SD(Staff Development)研修・FD研修などの実施を通じて、教職員が教育の理念や学内外の問題・課題を共有し、一体となって学修支援に取り組んでいる。</li> <li>・学生同士の交流を促し、豊かな人間性の醸成に資する仕組みを整備している。</li> <li>・eラーニングシステムの機能を生かして、障害学生支援を実施している。</li> <li>・中途退学などの防止につながる取組を行っている。</li> <li>・学生のニーズに沿った多様な方法により授業を開講している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度より「初年次セミナー」を活用した学修サポートを開始する。また、「レポートの書き方入門」をⅠとⅡに分け、内容を充実する。</li> <li>・令和5年度にアカデミック・スキル関連科目の専任教員の公募を行い2名の採用を決定した。</li> <li>・令和5年度に「SOBA マナベル」授業画面に字幕表示機能を実装した(編集機能は実装途中)。</li> <li>・令和4年度にZoomによる教員主催の交流会を試験的に実施した。</li> <li>・令和6年度からシラバス項目を充実し、より学生に分かりやすくする。</li> <li>・学費面で学びの機会が奪われないよう学費延納希望に柔軟に対応している。</li> <li>・修学上の支援対象の学生に関する情報は担当教員と職員のみが閲覧できるメモ機能を活用し、迅速かつ安全な情報共有を行っている。</li> <li>・障害学生支援規程の施行から1年となる令和5年12月に、支援を行っ</li> </ul>

			<p>た教員を対象にアンケートを実施し、結果を教員情報ページで共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局にて学生支援センターアンケートを実施した（結果集計中）。”</li> <li>・令和5年度に教員引率の課外活動（交流会や学外施設見学）を計8件行った。</li> <li>・令和5年度に学生支援センターアンケートを実施した。</li> <li>・令和6年度から原則として全授業を大学で行い、学生が自由に来校できる体制に戻す。</li> </ul>
5	キャリア形成と就職支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化に応じて学生のキャリア形成や就職・転職活動を支援する体制の充実を図っている。</li> <li>・学生のキャリア形成や就職・転職活動に役立つような科目群を整備している。</li> <li>・卒業生を対象とした勉強会や交流会の開催など、卒業や資格取得後をフォローする仕組みを整備している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度から就活セミナーをオンデマンド講座とライブ講座に分けて実施している。</li> <li>・令和6年度からのインターンシップ科目の開設を検討中。</li> <li>・令和5年度に卒業生も参加可能な教員主催の交流会を実施した。</li> </ul>

### ③大学運営

年度	事項	概要	進捗状況
5	運営体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を取り巻く環境変化に応じて組織を柔軟に改編しながら、学長をはじめとする委員会、教授会等の役割と責任を明確にし、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務委員会、教務委員会、及び事務局の意見を取り入れた「令和5～15年</li> </ul>

		<p>ガバナンスの強化を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の提案などを各委員会、教授会等がくみ上げ、教職員の意思疎通と連携を適切に行い運営をしている。</li> <li>・中長期的な管理運営体制の視点に基づき有用な人材を計画的に確保するとともに、SDをはじめとする研修等により管理運営にかかわる教職員の人材育成をしている。</li> </ul>	<p>度八洲学園大学第 3 期中長期計画」を策定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度に SD・FD 合同サロンを実施した。</li> <li>・令和 5 年度にアカデミック・スキル関連科目の専任教員の公募を行い 2 名の採用を決定した。</li> <li>・令和 5 年度に総務教務合同委員会を開催し、内部質保証の方針等を確認した。</li> <li>・学長補佐体制の強化のため、令和 5 年度より、学長、総務委員長、教務委員長によるミーティングを開始した。</li> <li>・令和 5 年度に SD・FD 研修会を実施した（3 月予定）。</li> <li>・令和 3 年度より SD として専任職員の勤務時間内の研修参加を推奨し、研修成果を業務に活用している。</li> </ul>
5	内部質保証の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部質保証の評価の結果を大学運営の向上のために反映し、PDCA サイクルを機能させている。</li> <li>・IR (Institutional Research) によるエビデンスに基づく自己点検・評価を定期的に行っている。</li> <li>・自己点検・評価の結果を学内で共有し、情報を公開している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度は、IR 推進合同会議（メール）を 5 回開催した。</li> <li>・令和 5 年 4 月 1 日付で「八洲学園大学 自己点検・評価に関する規程」を改定した。</li> <li>・令和 5 年後に内部質保証推進規程</li> </ul>

			<p>に基づく諸方針を策定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度は、内部質保証推進部会を 2 回、IR 推進部会を 4 回開催した（一部 3 月予定）。</li> <li>・令和 5 年度に大学サイトに教学 IR ページを新設した。</li> <li>・令和 5 年 6 月末までに「令和 5 年度自己点検評価書」を公開する。</li> <li>・令和 6 年度に大学機関別認証評価を受審する。</li> </ul>
5	組織倫理、人権、安全管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理の遵守を推進している。</li> <li>・人権に配慮した職場環境を促進している。</li> <li>・発災時の事業継続体制の構築などによる危機管理対策をしている。</li> <li>・e ラーニングシステムの安定的な稼働と情報セキュリティの強化を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度に「八洲学園大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」を改定し、外部研究費獲得教員にメールによるコンプライアンス教育を行った。</li> <li>・令和 4 年度に地震発生時の安否確認メールのシステムを見直した。</li> <li>・総務委員会を中心に学内の情報管理について検討している。</li> <li>・令和 5 年度に全館の天井ボード補修工事を行った。</li> </ul>

#### ④社会連携・社会貢献

年度	事項	概要	進捗状況
5	生涯学習社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方自治体の生涯学習プログラムとの連携を進めている。</li> <li>・ 企業等と連携・協働する体制を強化し、職業人向けリカレント教育の充実を図っている。</li> <li>・ 生涯学習機関として社会の多様なニーズに応える公開講座を展開している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度から、日本防災士機構に防災士養成機関認証を受け、「防災士養成講座」を開講している。</li> <li>・ 令和4年度から、横浜市こころの健康相談センターと連携し、「ゲートキーパー養成講座」を開講している。</li> </ul>
5	社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育・研究の成果や施設・設備を活用して広く社会や地域に貢献することを推進している。</li> <li>・ 学生や教職員、卒業生等が行っている教育・研究の成果を社会や地域に還元する活動、またその他のボランティア活動等についての情報交換・発信を大学として推進している。</li> <li>・ eラーニングシステムの機能を活かして公開講座の充実を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度に「リカレント研究センター」を設置した。令和6年度のリカレント研究員は3名の登録を予定している。</li> <li>・ 令和5年5月から附属図書館閲覧室の一般開放を再開した。</li> </ul>

#### (3) 施設・設備の整備計画

横浜ビルの老朽化（築35年）に伴う整備を行う。令和5年度は自家発電機蓄電池交換工事、剥離清掃、1階エントランスホール等の照明器LED更新工事の他、一部教室で破損が確認されたことをきっかけに全館の天井ボード補修工事を行った。令和6年度は、最低限の補修としてキュービクル内部部品更新工事を予定しているが、その後も収支状況を見つつ優先度の高いものから実施していく。さらに学内LAN配線や電話設備も耐久年数を大幅に超えており、いつ不具合が起きてもおかしくないことから、入学者数や学納金収入状況を見ながら、令和7～8年度内の改修を計画したい。

#### (4) 授業料変更等

令和6年度から値上げする。

(5) 卒業者数、就業者数、学位授与数の見込み ※卒業者数、学位授与数は2(2)参照。

学生区分	就業者数(在学時からの就業者も含む)(人)
正科生	1,282人
科目等履修生	446人

(6) 学生の就職、進学状況

平成24年度後半より「キャリアコーディネイト室」を設置し、就転職を希望する在学生・卒業生へ就転職セミナーの実施や、メールでの定期的な就職情報配信を行っている。令和5年度はキャリアコーディネイト室の支援により37名(科目等履修生を含む)の就転職が決定した(3月1日時点)。大半が社会人学生であることから、既に就職している者も多く必ずしも卒業と同時に就転職を希望するとは限らないが、「キャリアコーディネイト室」の活動が広報に結びつき、入学促進にもつながっている。

(7) 教職員の採用・退職計画

職位		令和5年度退職(人)	令和6年度採用等(人)
教員	本務		
	特任教授	0	0
	教授	0	0
	准教授	1	0
	講師	1	2
	兼務(非常勤講師)	3	1
職員	本務	0	1
	兼務	1	1

(8) 今後の課題

引き続き、定員充足率80%の達成が課題である。令和5年度は、入学者数、履修者数ともに前年度より増加し、令和5年5月1日時点の定員充足率は約60.1%(科目等履修生を含めると約79.8%)と、昨年度より約3.0%伸びた。定員充足率が伸びた一方、専任教員数は大学設置基準に定める最低人数ぎりぎりの状況が続いており、教員一人あたりの学生数が増えている。そのため、学生数の増加に対応して教(職)

員を増やすことも課題である。同時に、引き続き収支のバランスも考えた経営戦略が求められるため、令和6年度に学費の一部（入学金、授業料、管理料）を値上げし、令和8年度にシニア割引の対象年齢を55歳以上に引き上げる。

また、コロナの影響によるオンライン授業の普及によって、eラーニングスタイルの大学の競争はさらに激しくなると考えられることから、より一層eラーニングシステム「SOBA マナベル」の改良を進める必要がある。

## 5. 財務の概要

前回の認証評価で指摘を受けた財務状況は改善したといえる。引き続き収入と支出のバランスを注意深くチェックしながらコスト削減と各分野の収入増を同時に推進するとともに、教職員の採用、障害学生支援の体制整備、eラーニングシステムの開発、内部質保証の推進など、収益をしっかりと教育研究経費に充てていく。また、築後36年になる八洲学園大学本館を維持するため、大規模修繕の計画およびその原資となる修繕積立金の計上も今後の課題である。